

## ～第66回日本小児保健協会学術集会を開催するにあたって～

このたび、第66回日本小児保健協会学術集会を、令和元年6月20日（木）から22日（土）まで、東京都江戸川区船堀のタワーホール船堀にて開催させていただく運びとなりました。日本小児保健協会会員の皆様のみならず、小児保健に携わっておられる多くの方々にぜひご参加いただきたいと存じます。

小児保健協会の最大の強みは、子どもたちの健康を多職種で考えることができる点だと考えています。核家族化が進み、また地域コミュニティが脆弱化する中での子どもの育ちには、様々な課題がでてきています。また、現代社会の中で、新たな子どもの健康課題もでてきています。

それに対して、子どもたちの心身の健康を支える我々専門職の果たすべき役割がますます重要になってきております。医療、福祉、行政、保育、教育など、子どもの育ちに関わるすべての職種の方が、チームを組んで子育てを支援していくことが将来の日本のためにも必要です。そのような意味から、本学会のメインテーマを「みんなで創るこれからの小児保健」といたしました。

今回の学術集会では、いろいろな立場から参加される皆さんにとって意義のある内容を目指して、教育講演・シンポジウムのテーマとして、発達障害・アレルギー対策・予防接種・齲歯・メディア視聴問題・在宅医療・成人移行医療・離乳食と食育などの幅広い問題を取り上げました。また会頭特別企画として、「**こどもの虐待 一周産期からの切れ目のない支援**」を開催し、昨今の社会情勢を受けて多くの参加者の方々の関心も高いと思われるこどもの虐待問題を取り上げます。学会初日の夕刻ですが、なにとぞ多くの方々のご参加をお待ちしております。

本学会には、一般口演・ポスターに230演題という多くのご応募をいただきました。特に若手の医療者・研究者の今後の発展を応援したいと考え、例年の学会と同様に、若手奨励賞の贈呈も行いたいと考えております。

なお、学会期間中に同じ会場で日本小児保健協会主催の保育士等キャリアアップ研修会（東京都指定、専門分野研修「保健衛生・安全対策」）が開催されます。別途お申込みが必要です。で、小児保健協会HPの研修会のページをご参照ください。

チームワークを作り上げるためには、常に多職種間で情報を共有しあい、活発に議論をし続けることが大事です。この学術集会は我々がみんなで集まってその議論をする最適の場です。ぜひ多数の皆様にご参加いただきますようお願い申し上げます。

第66回 日本小児保健協会学術集会

会頭 **岡 明**

（東京大学医学部 小児科）